

## 火の用心 7つのポイント

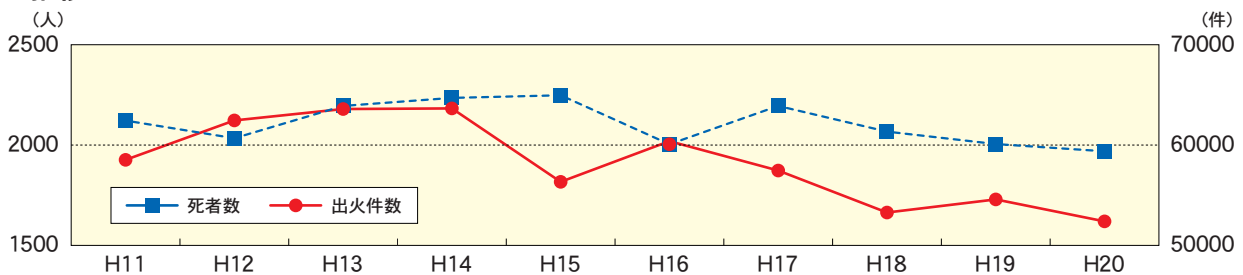
最近10年間の火災動向を見ると、63,651件を記録した平成14年以降、概ね減少傾向となっておりますが、死者は毎年2,000人前後に上っています。

火災による被害をなくすためには、

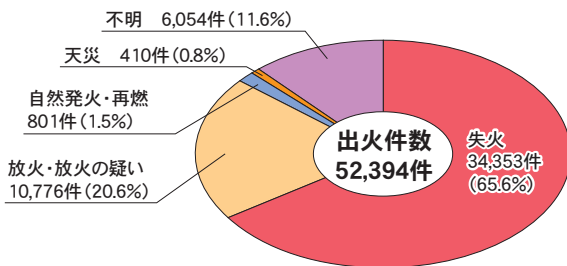
- 火災が起きる原因を知り、日頃から注意すること。
- そして、万が一、出火したときにどのように行動すべきかを覚えていることです。
- 住宅火災で「逃げ遅れ」による死者は全体の6割を占めています。住宅用火災警報器を設置することも重要な対策の一つです。

火災による被害を少なくしていくためには、家族、地域ぐるみで防火意識を高めることが大切です。

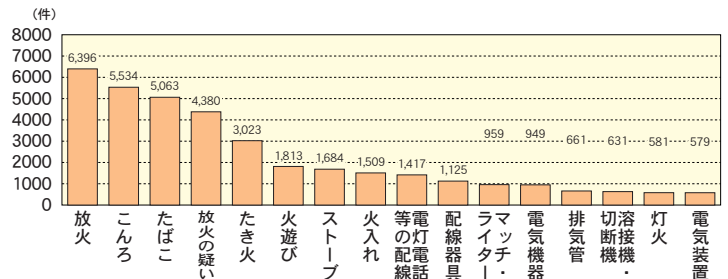
### 火災の推移



### 出火原因別出火件数 (平成20年中)



### 主な出火原因別の出火件数 (平成20年中)



## 火災を防ぐための7ポイント

### 1 放火対策 家まわりの整理整頓を

- 家のまわりに燃えやすい物は置かない。
- ゴミなどは、指定された日時に出す。
- 車庫、物置などの戸締まりも忘れずに。

### 2 調理中はコンロから離れない

- コンロから離れるときは、必ず火を消す。
- コンロのまわりに燃えやすい物は置かない。

### 3 正しい喫煙と後始末を完全に

- 喫煙は必ず灰皿のあるところで。
- 火の付いたたばこの投げ捨ては絶対しない。
- 寝たばこはしない、させない。

### 4 強風時や乾燥時は、たき火をしない

- 火を付ける前に、消火器や水バケツを用意。
- 消えたと思っても、再度水をかけるなど完全に消火されたことを確認。

### 5 子どもに火遊びをさせない

- 子どもに火の正しい使い方、恐ろしさを教える。
- 子どもの手の届くところに、マッチやライターは置かない。

### 6 ストーブまわりの整理整頓を

- 衣類やふとん、カーテンなど、ストーブのまわりに燃える物を近づけない。
- ストーブの近くで洗濯物を干すのは厳禁。
- ストーブへの給油は、完全に火を消してから行う。

### 7 たこ足配線はしない

- コードの上に重い物を置いたり、コードを無理に曲げたりして使わない。
- コンセントや差し込みプラグは定期的を確認し、いつもきれいにしておく。